

# おじゃまします！

文責：徳永哲郎（地域学校コーディネーター）

## 「心のラリー続けます！」(8/10,一中)

～「卓球の先生」が地域から～

8月から一中卓球部にボランティア指導者として、上道地区の遠藤恵子さんが来ておられます。森田泰弘校長からの問い合わせと清水厚志公民館長の紹介で実現しました。

この日は、男女13名の部員たちがラリーやサーブプレシブ練習、試合形式等、自分たちのメニューに沿って練習。遠藤さんは7台の卓球台を順に回りながら基礎をしっかり指導されました。その中で「(ボールをラケットに)のせて伸ばす」「相手が打ちやすい所に返す」というようなわかりやすい言葉や「今の、いいよ！」というほめ言葉を、



「よろしくお願いします！」



「ボールをよくみてね！」

## 「有言実行」(7/20 上道小)

上道小の終業式は、1階教室をスタジオに、リモートで行われました。その冒頭、進行役の延田充紀先生(CS委員)が送受信のテストとして、先日の「見守りあいさつ座談会」で感じたことを語られました。

**「地域の人と話し、地域の人がみんなから元気をもらっていることを知りました。みんなは地域の人を元気にする力を持っています。夏休みに入っても、あいさつをして、地域の人に元気を届けましょう。」**

No.36で紹介した自分の思いを実行に移された延田先生の言葉は、各教室で聴いていた子どもたちの胸に深くしみこんでいったことでしょう。



## 「大作戦」の思いはこれからも！

「見守りあいさつ大作戦」は1学期の終了で一旦区切りをつけましたが、8月24日から一中で、8月27日から両小学校で2学期が始まります。引き続き「ながら見守り」を通して「見守り・あいさつ・顔なじみ」の一中校区づくりにご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。



## みなさんの感想

- 「コロナ禍で対外試合の機会が減っていたので助かります。これをきっかけに、地域の方々とスポーツで交流できたらいいですね。」(顧問・若林陽子先生)
  - 「基礎をしっかり教えてもらえるので嬉しいです。もっとうまくなりたいです。」(部長・徳若興吾さん)
  - 「練習に身が入るようになりました。いろいろな動きを身につけたいです。」(女子部長・渡邊琉叶さん)
  - 「経験してきた人の指導はやはり何か違います。声をあげてよかったです。」(森田泰弘校長)
  - 「私は高校時代に基礎をしっかり教わりました。息子も一中卓球部卒です。これからも都合が合えば、協力したいです。」(遠藤恵子さん)
- ※2年前は「魚捌き実習」でお世話になった遠藤さん。中学生との交流を楽しんでおられるようでした。「相手が打ちやすい所に返す」は、日常生活でも大切にしたいですね。



## 一中校区が生んだ逸材

### ラジオ体操の祖 藤本光清

1928(昭和3)年11月1日に始まったラジオ体操。その創案に中心的役割を果たしたのが上道村出身の藤本光清でした。彼は第1～3回の放送でマイクの前に立ち自ら指導しています。



鳥取師範学校卒。昭和初期、旧東京市に勤務した時「体育の民衆化」に尽力。「すばらしい選手を育てることも大切だが、国民の健康のためには、体育がもっと身近なものにならなければならない。」(東洋大学の研究論文より)上道地区が今の「市民運動会」につながる運動会を戦前から行っていることとも関係がありそうです。

## 缶バッチができました！

No.36で紹介したロゴマークをあしらった缶バッチができました。今回は試作品ですが、入選作品以外の作品もバッチにして「みんな応援団員」にする予定です。一中校区CSが一層親しまれるようにと願っています。



## 新たにご協力いただくことになった皆さん

○京久野履物店

累計56カ所(2021.8.10 現在) ※敬称略・順不同